

大学の情報発信強化を目指した教育・研究情報の組織化

浅井 晶子

近年、大学を取り巻く環境の変化に伴い、大学の教育・研究内容に関する説明責任が従来以上に重要視され始めている。その説明責任を果たすために文部科学省は、web 上での教育・研究内容の公表に関する通知をしている。しかし、現在の大学の情報公開状況は、情報が各項目ごとに分散していたり、同じ項目について各学内組織が個別に公開しているため、情報探索が難しいという問題がある。

そこで本研究の目的は 1)情報の一元的開示、2)公開されている情報への補足、3)システムを構築する過程で挙がる、情報発信システム・データベースの問題点からのシステム機能要件の洗い出しの 3 点とした。

筑波大学の情報公開状況は、各情報間のリンクがないことによる情報の散在とリンク数の増加、同項目関連ページが複数存在するなどの問題から利用者にとって使い辛いものとなっている。この状況を踏まえて本研究では外部評価者向けに公開情報を対象としてシステムを構築した。本システムは散在している情報を取得してきて整形する。その結果として情報を同一ページ内に集約して表示が可能となった。また各情報間リンク数が最大で 12 回から 1 回に短縮された。

本システムでは、情報公開状況調査の結果筑波大学の公開情報の多くが直接取得・利用ができなかったため、不足した情報を一部手動取得し中間データベースを作成した。本システム内各ページはこの中間データベースと CiNiiAPI、筑波大学最新情報 RSS フィードから自動取得、整形して表示する。システムを構築する過程で判明した情報公開状態の問題点は 1)データ作成ガイドラインの不足のため各種情報の自動取得が困難であること、2)同一項目の情報源が複数存在することで最新、正確な情報が不鮮明になっていること、3)webAPI やクロール可能なファイル形式での公開などの、情報を外部から 2 次利用するための機能の不足である。

本研究では現在公開されている情報を取得、同一ページ内に一元開示した。また論文本文へのリンクなどで情報の補足を行った。最後に、情報発信に向けたシステム、データベースの要件に次の 3 点を挙げる。まず、一組織による情報の一元管理である。これは情報の組織化を図ることで記述形式の統合を目的とする。次に、情報公開ガイドラインの作成である。これは一元管理だけでは統一しきれない記載方法の詳細規定を行うことで表記の揺れを軽減し、検索漏れを減少させることを目的とした。最後に、組織化した情報の外部利用のための API の実装である。

(指導教員 宇陀則彦)